流通とＳＣ・私の視点

2012年２月８日

視点(1504)

ＳＣの成立数の新しい概念（その２）!!

（流通とＳＣ・私の視点1503より続く）

新しい算定方法によるＳＣの理論ＳＣ数は次の通りです。

	新ＳＣの理論成立数	１ＳＣ当たり支持人口
米　国	51,372ＳＣ	6,027人
日　本	4,191ＳＣ	21,156人
中　国	20,344ＳＣ	65,932人

今、アメリカはＳＣの成熟期であり、ＳＣの量的拡大より「ＳＣ業態の多様化」と「ＳＣの選択と集中」の２つの現象が起こっています。今後、激しい新陳代謝（ＳＣの勝ち組みと負け組の入替）の時代となっています。

日本は、ＳＣの理論成立数の 70～80%の実際ＳＣ数が存在し、まさに「ＳＣの飽和期」（ほぼ全国的にＳＣが普及した状態）になっています。今後はＳＣのエアポケット立地（まだＳＣが飽和状態になっていない立地）や都市立地ＳＣ（中心市街地や周辺市街地立地のＳＣ）や 10,000 ㎡以下の小型ＳＣの開発によりＳＣの量的拡大は進み2020年頃には、4,000ＳＣの時代が到来します。しかし今後のＳＣは、ＳＣ業態の多様化が基軸となり、まさに「ＳＣの成熟期」に突入しています。

日本もＳＣの成熟期にはアメリカのように、１つのマーケットの中に３～４ＳＣが互いに得意分野を発揮して競存共栄する**「棲み分け型ＳＣづくり」（もう１つあってほしいＳＣづくり）**が可能となります。

一方、中国では、今からＳＣの開発ラッシュでＳＣの黄金時代が2011～2030年までの20年間続くことになります。

今、中国はＳＣが2,800ヶ所、2011年には800ヶ所のＳＣが開発されています。中国のＳＣの理論成立数は20,344ＳＣであり、今後20年間で17,544ＳＣ、１年間で平均877ＳＣが潜在的に開発されることになります。2020年には10,000ヶ所、2030年には20,000ヶ所のＳＣが立地することになり、**中国の2011～2030年の20年間はＳＣの黄金時代**となります（六車流：流通理論）。

ここで話を変えて、ＳＣの成熟化によるＳＣ業態の多様化の比喩論として、自然界の動物の話をさせていただきます。比喩論とは１つの起こった現象を別の分野で起こった現象と比較して、その現象を相手に理解しやすくする論法です。

①マダガスカル島の猿の“種”の多様化の話

マダガスカル島はアフリカ大陸から古代に分離した孤立した島で、当初は猿はいませんでした。しかし何らかの要因により一組（複数）の猿がアフリカ大陸からマダガスカル島へ流れ着き、競争相手のいない、かつ豊富な食物によって猿社会は大発展しました。しかし、その後、自然変化が起こり、マダガスカル島は砂漠化し、森林（食べものと住み処）が減少しました。マダガスカル島は孤立した島であり、猿達は他の場所へ移ることはできません。そこで進化が始まりました。少なくなった森林の中で、新たな食べもの（果物から葉っぱ、草、昆虫、海草等）を多様化し、究極は「毒を持った食べもの」も消化機能を進化することにより、毒消し作用を体に持ち、食べものとしました。どのような食べものも、常食として長期間食べると「おいしい食べもの」に変化します。

このような猿の進化により、マダガスカル島の砂漠化による森林減少にもかかわらず同じ猿が、食べものや住み処や敵の存在によって変化し異なる“種”に多様化して、マダガスカル島の猿は人間が進出するまで減少しませんでした。これはＳＣが飽和期になりマーケットが相対的に減少すると、ＳＣがマーケットの掘り起こしを行い、今までマーケットでなかったニーズを自らのＳＣのニーズとして取り込み、ＳＣの業態の多様化が起こったアメリカの流通業界の中でのＳＣの業態の進化の現象と同じです。究極の食品である毒のある食べものを毒消しで食べもの化（マーケット化）するノウハウは見事です。

②飛ばない昆虫は飛ぶ昆虫より“種”の多様化の話

昆虫社会では飛ぶ昆虫より飛ばない昆虫の方が“種”の多様化が２倍早いそうです。１つのエリアに食料（マーケット）が不足すると飛ぶ昆虫は他のエリアに食料を求めますが、飛ばない昆虫はその場（閉鎖マーケットあるいは成長のないマーケッ）で、食料の多様化による進化する道はなく、必然的に“種”の多様化が起こります。

(株)ダイナミックマーケティング社[+5]
代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2012 All rights reserved.